

経済産業部

『女性起業支援フォーラム』を開催

女性の「ワーク・ライフ・バランス」を考える

『中小企業白書2012年版』によると、女性が起業する際の最も大きな課題として「経営や事業に関する知識・ノウハウ不足」を挙げています。女性は出産や育児等により、男性より就業経験が短く、知識やノウハウを与えてくれる助言者に会う機会が少ないためと考えられています。さらに「家事・育児」等の比重が女性に偏っているのも課題となっています。

女性の起業・就業は、減少傾向にある生産年齢人口や世帯所得の増加をもたらし、結果として地域経済の活性化が期待できます。

今回、女性の起業に焦点をあて、係る課題解決のきっかけをつくり、女性の社会進出と自己実現を促すことで地域経済活性化へのステップアップを図るため、11月10日（土）、沖縄産業支援センターに



主催者挨拶をする
下地祥照地域経済課長



基調講演Aで講演する新城氏



基調講演Bで講演する池内氏



会場の様子

おいて、『女性起業支援フォーラム』を開催しました。

フォーラムの内容

基調講演Aでは、起業を目指す女性の視点で、株式会社アイリスエステサロン代表取締役の新城恵子氏に「女性の起業と自立—1台の机と電話からスタートした泣き笑いの24年」と題して御自身の体験を、基調講演Bでは、女性を支援する立場から、株式会社テクノ・コーポレーション代表取締役社長の池内比呂子氏に「事業所内保育所で、女性のライフステージを応援」という題で御講演いただきました。

後半は、このお二人に、沖縄県中小企業家同友会筆頭理事であり株式会社イタク代表取締役の糸数久美子氏とRBCキャスターの照屋信之氏を加え、株式会社まなび代表取締役の石原地江氏をコーディネーターに、「女性の起業に必要なもの」というテーマでパネルディスカッションを行いました。その中で、女性が活躍すれば7兆円の市場を生み出す可能性にもふれ、起業における重要ポイントとして、「成功者に学ぶ」「他者との連携」「日々の積み重ね」「セルフマネージメント」「配偶者を真のパートナーにする」といったことが挙げられました。

参加者の反応

当日の参加者は88名。そのほとんどが女性でしたが、お子様連れの来場者もいらつしました。

フォーラム終了後のアンケートでは、75%の方が起業を考えており、今後望むこととして「起業支援機関や専門アドバイザーによる相談会」が一番多く挙げられていました。また、「現実感のある話が聞けてよかった」「頑張ろうという意欲が出た」「おかげで第一歩が踏み出せそう」という感想も寄せられ、満足度の高いフォーラムとなりました。



パネルディスカッション